

6. 八社子ども食堂

記録：山田美緒

場 所：八社コミュニティセンター（名古屋市中村区横井1丁目378）
対 象：子ども 大人 地域の方（誰でも）
参加費：子ども（一応18歳ぐらい）無料、大人500円+協力金
代 表：渡邊このみさん（21）
主 催：八社学区民生委員児童委員協議会・中村区竹の子ボランティアサークル

参加日時：2017年2月5日（日）17:00～20:00（ボランティア15:00～）

参加人数：子ども4人（高校生）大人17人

スタッフ9人（学生8人+田中さん）民生5人

献 立：煮込みハンバーグ ポトフ（50食用意）

参加者：山田美緒

子供食堂というより、普通の飲食店のようなものを目指している！

スタッフ1人1人にニックネームがつけられている。

◎きっかけ

2年間、八社コミュニティセンターで学習支援を行っていたが（週2～3回）、助成金がなくなったため辞めようと思っていた。しかし、民生委員の方から辞めないでほしいと言われ、続けることにした。（場所を借りるのにお金がかかることが辞める理由としてあげられたが、民生の方に借りてもらうことでその悩みが解消した。）学習支援ではなく子ども食堂の方がいろんな人に来てもらえると思い子ども食堂にした。（八社コミュニティセンターでは「高齢者のふれあい給食会」で提供するものを全て手作りしているため、道具や整備など環境が整っていた。そのため、子ども食堂を始めやすかった）

◎場所

八社コミュニティセンターの2階で行っている。民生の方が借りるならば、無料で使えるため借りてもらっている。（子ども食堂開催日には民生の方がいる）

◎資金

①中村区竹の子ボランティアサークルの活動費、②全労済からの助成金、③大人の500円+協力金によって賄っている。地域の方からの寄付はもらっていない。（野菜など）利益を求めず、ぎりぎりの状態で行っている。

◎食材、メニュー

食材は、自分たちで購入している。寄付はない。

メニューは、スタッフみんなで決めており、子ども食堂を行う前に一度メニューを作って可能かどうか試している。

◎宣伝

Facebook や地域の掲示版を活用したり、子ども食堂にきてくれた人たちに次回のお知らせが書いてあるチラシを配布したりしている。また、民生委員会の方に声かけをしてもらっている。

◎課題、悩み

毎回、何人来るのか把握できないこと。また、子ども食堂という名前 = 貧困というイメージであることが嫌。(報道の仕方や世間のイメージで)

◎感想

中高生や大学生など若い子が中心となって全てを行っていることに驚いた。年齢が近い分、みんな仲がよく楽しそうに活動をしていた。この日は天気が悪く、家族連れが来なかったが、普段は小さい子と遊んだりもするそうだ。年齢が近いこともあり、沢山お話を聞けたり、交流したりすることができた。5時間くらいいたが、あっという間に感じた。八社コミュニティセンターの場所が駅から少し遠く、車がない人は不便かなと感じた。(バスがでているのかもしれないが)

◎写真

